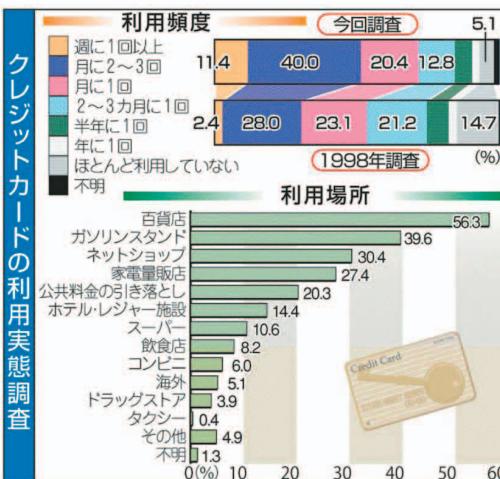


大銀経済経営研究所の調査で、
クレジットカードが県民のより
身近な決済手段になつてゐる実
態が浮かび上りました。

クレジットカード より身近な決済手段に



利用回数が増え、少額の買い物にも。大銀経済経営研究所（DKK）の調査で、クレジットカードが県民のより身近な決済手段になつてゐる実態が浮かび上がった。ネット通販の普及などで使える場が拡大。キャッシュレスの利便性に加え、ポイントがたまる「お得感」も要因。デフレ不況で所得が増えない中、賢く買い物するツールとして利用する消費者が増加しているようだ。

利用増え少額でも

①回答者のうち、クレジットカードを持つ割合は？ 利用頻度で最も多いのはどのくらいで、その割合は？

メモ
調査は昨年11月、県内の大分銀行を訪れた人を対象に実施。940人が回答した。日本クレジット協会によると、2011年の国内のクレジットカード発行枚数は約3億2千万枚で、01年から8千万枚増加。利用金額は約23兆円から約50兆円に増えた。

利便性や“お得感”で

聞いたところ、4割超が「昇している。月1回以上の利用は、性別では女性より男性、年代別では20代以下が82%、30代が79%と若年層が多い。5年前と比較した頻度を聞いたら、4割超が「増えた」と答えた。日本クレジット協会によると、2011年の国内のクレジットカード発行枚数は約3億2千万枚で、01年から8千万枚増加。利用金額は約23兆円から約50兆円に増えた。

カードを使う場所は百貨店、ガソリンスタンド、ネットショップの順。高額商品の購入が多い一方、スーパー、飲食店、コンビニなど日常的な買い物への利用も増えてきている。利用頻度が高い人ほど、少額決済が多い傾向がみられる。使う理由は「ポイントがたまる」（51%）、「現金を持ち歩かなくていい」（51%）、「支払いが簡単」（46%）など。女性ほどポイントを意識して利用する傾向がある。

②調査結果から読み取れる傾向を考えてみよう。

③カード利用の注意点を考え、話し合ってみよう。

えた」と回答。特に20代以下で高くなっている。
月平均の利用額は「1万円以上3万円未満」が42%で最も多く、「5千円以上1万円未満」は18%。